

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500033		
法人名	有限会社UTASI		
事業所名	グループホーム九十九の里		
所在地	長崎県佐世保市下歌ヶ浦802番地8		
自己評価作成日	令和3年11月21日	評価結果市町村受理日	令和4年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月一回以上消防避難訓練を避難場所・経路などスタッフ同士確認しながら行っている。繰り返しではあるが身体拘束の勉強、自己アンケートを行い自分自身をふりかえり見直して日々の業務に繋げている。面会一部緩和時には県外の方も含め コロナワクチン接種された方は証明書を見せてもらいバルコニーで一定の距離を持って面会していただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年1月15日		

長崎県北部、佐世保市下歌ヶ浦地区の長閑な土地に「安心して暮らすこと」「自分らしく生きること」との理念を掲げ当ホームは開設18年を迎えた。ホームは本人や家族の意向を確認し、職員の個性を生かしつつ、チームとして入居者が求めていることの理解に努めている。こまめな家族とのやりとりは職員間の情報共有に活かされ、入居者や家族との風通しの良い関係性の構築に繋がっている。現在は新型コロナウイルス感染症予防の観点から入居者の外出や地域との関わりも困難な状況にあるが、地域に向けた介護者教室は毎年多数の参加者があるなど、地域とホームの繋がりを大切に、状況が落ち着けば再開する姿勢を持っている。仕事を超えたもう一歩踏み込んだ介護を提供したいとの職員の思いから、今後も期待が持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心して暮らすということ、自分らしく生きるという事を玄関、事務所2階事務所に理念としてかかげ実践に繋げていくように心掛けている。。	ホームでは「本人の日常生活のリズムをホームの日課に強制するのではなく、起床時間など本人のリズムを大切にケアを提供すること」を大事にし、入居者自身でその日の過ごし方を決めてもらえるよう関わりを持ち取り組んでいる。職員はその方にとってより良い支援を日常的に話し合い、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナの為行事など中止になる事が多かったが清掃参加で少しの交流を行っている。	現在はコロナ禍の影響により、これまで行われていた介護教室の開催が難しい状況となった。ホームは自治会活動への参加を通して地域と繋がりを持ち、有事の際には地域住民宅に一時避難場所に利用する提案を受けるなど顔が見える関係性を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の方に呼び掛けて集まってもらい介護教室を行っていたがコロナ感染予防の為今年は動画配信で行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為スタッフのみの参加で行事、入居者状況、スタッフ研修などの報告を行いその後推進委員の方にも九十九だより等郵送し意見や情報を頂き話し合いに活かしている。	運営推進会議は書面会議により開催している現状にあるが、構成メンバーへ入居者の介護度や通院状況・ヒヤリハットなど暮らしぶりをホーム便りと共に送付し、長寿社会課担当者や構成メンバー、家族からの意見の集約に努めている。ホームでは入居者が参加して会議が行われており、運営の透明性が図られている。	現在は書面上でのやり取りが中心で、ホームの現状を伝えることはできている。一方で、意見の集約が不足している現状にある。参加者より意見や要望を汲み取りやすいよう書式を工夫する等、会議が更なる実りあるものになるよう今後の取り組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年はコロナ禍の為運営推進会議には参加してもらえなかったが、議事録や九十九だよりを郵送している。	市の長寿社会課とは運営推進会議の資料を通してホームの現状への理解に繋げ、協働の姿勢で関わりを持っている。ホームと本庁とは距離が離れた立地で、生活に関わる身近な相談事は地域の行政センターへ相談することも多いが、課題解決等入居者が安心して暮らせるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	WEB研修や身体拘束を行わないケアをする為ホーム研修を行い取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	職員は研修を通して身体拘束の要件や具体的な行為の理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に努めている。転倒予防に人感センサーの使用はあるが、自己アンケートや身体拘束適正化委員会で、日頃の支援の振り返りを行い、センサーの使用方法や目的の理解に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修がなくリモートやDVDを見て研修し声掛けや言葉遣い、強い口調になったりする為、気づいた時にお互い注意し合ったり個々の振り返りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている方はいないが、研修などある場合は参加したかったが今年度は学ぶ機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居者様、家族への説明しながら不安や疑問など尋ね十分説明し理解、納得してもらい契約結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の日々の様子、声掛けなどで思いを引き出し家族さんへ面会や電話等で意見を聞いたりしながら行っている。	ホームでは定期的にホーム便りを発行し、家族へ入居者の暮らしぶりや日常の出来事を知らせることで家族の理解や安心に繋げている。職員は入居者や家族一人ひとりの要望や状況に応じた細かな関わりをもち、傾聴の姿勢で関わりを持ちながら入居者や家族の気持ちに寄り添う対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回は会議をし職員の意見、提案、要望等声を聴き必要に応じて反映させている	月1回の職員会議では入居者の状態や支援状況を話し合い、職員自らが考え行動することを大切にしている。介護職員初任者研修や実務者研修などの費用をホームが負担するなど人材育成への意識も高く、離職も少ない。チームとして日々の介護を実践し、支援の安定性も窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休、有給など取りやすく昇給や資格、時間外、通勤手当もありやりがいがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修へは参加行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、職員が同業者と交流する機会を作り勉強会、研修活動を通じて、サービスの質を向上させていきたいと言われていたがコロナ禍で交流会は年末に1回のみグループホーム協議会会議に参加の予定している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り時間をかけ入所前に面会し困っている事、不安な事を聞き安心できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に見学や、時間をかけ面会などにて希望を聞き、信頼関係が気づける様務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の方と希望、要望を聞き必要としている事を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人が出来る事を見極め、手伝いやレクリエーションなどに参加してもらっている。時には冗談交じりの会話をして共に笑顔になって暮らしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの為、窓越し面会や電話などで現状報告をしたり、日頃の写真を新聞にし家族に送付している。家族の希望に応じてTV電話を使い元気な姿も見せている。家族と本人との絆を切らさないよう職員は努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望により外出し教会でお祈りされたり手紙を書いてもらったりし、支援行っている。	入居前の情報や入居後の関わりの中でその方の職歴や生活歴を把握し、これまで大事にしてきた人や場所の把握に努めている。現在は外出や家族との面会も困難な状況にあるが、ビデオ通話などを活用し家族とオンラインで会話を楽しめるよう工夫している。感染状況に応じて距離を保つよう配慮すると共に、関わりが途切れよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う人と席を近くにしたり、スタッフが間に入って会話を進めたりしながら支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で入居者の様子、会話などから希望を見つけ本人の希望に近づける努力をしている。	職員は入居者に聞き入れやすい方言を用い、日々の関わりの中から思いや意向を汲み取るよう努めている。家族にもその都度こまめに状況報告をし、その時々に応じた柔軟な対応により入居者や家族との信頼関係を構築されている。職員は介護記録に日々の暮らしぶりを残し、その人らしい暮らしの実現に向け取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りや本人との会話などから把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、気分の変化や行動パターンなど一人ひとりの現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者1人1人担当者を設けケアマネと担当者、ケース会議で担当者以外の職員も意見を出し合い、家族の方の希望も取入れケアの方針を話し合いケアプラン作成している。	介護記録には時間ごとに具体的な支援の内容や心身の状況を残し、職員間で情報の共有や課題の抽出に活かされている。記録は入居者の生活状況や活動状況の基礎資料となり、介護計画の目標やサービス内容が適切に行われているかといった実践状況の確認にも活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、業務日誌に日々の様子を記入し、共有しながらケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して職員で話し合い本人、家族に合ったサービスが出来る様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、活動などなるべく参加し交流を図っていたが今年はコロナの為あまり参加できなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を出来るだけ継続し、通院介助など希望に沿った支援を行っている。	入居者や家族が希望するかかりつけ医へ職員付き添いのもと継続受診している。受診前には職員間でその方の健康状態を確認し、受診後は通院記録で主治医からの説明や介護に必要な留意点を申し送り、情報共有が図られている。日頃のこまめな様子を観察し入居者が適切な医療を受けることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活、日々の関わりで変化や状況など受診時、電話などで看護師やドクターに相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時必要な書類を用意し情報交換を行い病院で安心して治療が出来るような関係作りを行っている。退院時には病院よりサマリーをもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についてはターミナルケア行っていない為、契約時に十分な説明行っている。	現在、ホームでの看取り支援はなされていないが、入居時にホームの方針を説明し、終末期を迎える場所や急変時の対応など家族・入居者本人へ意向を確認している。家族とはその都度入居者の体調の変化に応じて再度意向を確認し、食事形態に変化をつけながらホームで対応できる範囲で最期の時間を大切に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備えて、実践研修を消防署より来てもらい指導受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回、消防署より来て頂きホーム内で月1回訓練を行い防災に取り組んでいる。	ホームでは新規採用職員に防災の手引きを準備し、訓練ごとに手順の確認を行いながら有事の際に安全に対応できるよう取り組んでいる。消防訓練後には具体的に訓練後の反省を記録に残し、気づきは次回訓練に活かされている。入居者の身体状況に対応できるよう米俵や座布団人形を利用した訓練の実施もあり、災害に備え対応できるよう取り組んでいる。	ホームは土砂災害区域であり、ホーム裏側の斜面は崖崩れ等の恐れが大きいことが懸念される。関係機関に相談や改善の要請を再三申し入れているが近隣住民の意見により改善が難しく、現在も小石が落下する等、何らかの現象が起きるたびに職員は危機感を感じている。今後も関係機関へ継続的に申し入れを行いその内容や経過を証拠として記録に残しておくなど、継続的な働きかけに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けを行い、本人の希望やその人が分かりやすい声掛けを行っている。	ホームでは定期的に接遇マナーについてのアンケートを実施し、マナーのチェックリストで自身の対応を振り返りながら介護職に大切な接遇を身につける取り組みがなされている。今年度は介護労働安定センターより外部講師を招き、入居者の尊厳を守るとともに、入居者や家族と信頼関係を築けるよう支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人の想いや希望を言えるような状況作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日の体調、想いを尊重し食事、就寝など本人のペースで生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自室にタンスがあり本人の洋服があるので自由に着替えたり、選んだりしてもらい洗面所にはくしを置き髪を整えてもらったりしている。外出時は職員と服選びをしたりしてちょっとおしゃれしてもらおう		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好き嫌いも把握し好みを生かし茶碗拭きや出来る事を手伝ってもらっている。	ホームでは入居者の誕生日ごとに手作りのケーキを準備し、その方のリクエストした献立と一緒に食べ楽しんでいる。食器には入居者の嚥下や咀嚼力に応じた食材を準備し、入居者が食べ物と認識できる大きさや形状にも配慮されている。皿の盛り付けや茶碗洗いなど、調理に参加される方もおり認知症状の緩和にも繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、量など把握し残食チェック行っており、水分量も食事以外に10時、15時、19時とってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛け、能力に応じて口腔ケア行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行っている。	職員は入居者の仕草や運動機能を注意深く観察し、適宜声かけし誘導を行いながらトイレでの排泄ができるよう支援している。病気や怪我の影響で一時的に車椅子やリハビリパンツ対応となった入居者も生活の関わりで機能回復し、車椅子から押し車に回復する事例もあるなど、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事量にて心がけてはいるが便秘の際にはドクターに相談し処方された薬を服用してもらうこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調をみながらタイミングに合わせて入浴してもらっているが入浴日は決まっている。	入居者は週2回程度の入浴支援を受け、それぞれに応じた入浴方法でゆっくりと寛ぎながら入浴支援に努めている。入浴を拒む入居者にはその方の生活歴から馴染みのある言葉で入浴を誘い、洗濯物の仕分けをしながら入浴後の衣類の支度を行うなど入浴への意識を持つ関わりに配慮し支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房で温度調節行い、テレビなどオフタイマーにするなど安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録を通院時に記録し薬の変更やドクターからの指示など理解できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力に合わせて役割を持ち楽しみのある日々を過ごしてもらるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見や、ドライブ買い物に出かけたりしているがコロナ禍になって以前より回数が少なくなってきた。	現在は感染症予防の観点から積極的な外出を控える状況にあるが、職員は入居者との受診支援の帰りに買い物へ立ち寄りたり、一緒におやつを楽しむなど個別対応で本人の思いに寄り沿った外出支援に努めている。ホームテラスには椅子やテーブルの準備があり、日常的に外気浴をしながらお茶の時間を楽しみ、気分転換に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で通院時などに好きなものを買えるようにお金を所持してもらい使える様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方が顔を見たいと言われたらTV電話で会話してもらったり贈り物や手紙が来たらで られる方には手紙を書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入替えや、加湿器を置いたりし季節 のカレンダー、花などを置いたりしている。	入居者が自らトイレや浴室に足を運びやすいよう 入居者の視線に入る高さにプレートを掲示し、場 所の認識を持ちやすいよう配慮している。入居者9 名の顔写真の掲示物はひとつの家庭である温か な印象を感じさせ、手作りの手すりを使用しながら 安心して自力で移動できるよう住環境の整備もな されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	居間での体操や会話、歌を歌われたり、好き な場所で好きな事をして過ごしてもらって いる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	自宅よりタンスや布団など使い慣れたものを 使用されている。	入居者の居室には使い慣れた家具や手回り品、 家族の写真などの持ち込みがあり、入居者が安 心して寛ぐことができるようあたたかな空間作りが なされている。居室でマリア像を礼拝する入居者 もあり、入居以前の生活を入居後も継続しながら その人らしい暮らしができるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	安全に移動が出来る様にソファの位置を変 えたり場所が分るように貼り紙をしたり声掛 けを行っている。		